

付録A： 離岸流セミナーでのアンケート結果

(1) 現場での実際の離岸流情報を得ること、(2) 離岸流啓発教育を行うこと、および、(3) 啓発教育用資料の拡充に必要な情報を得ることを目的に、離岸流に関する啓発セミナーおよびアンケートを、一般の高校生や市民、救難関係者、および離岸流に関し熟知していると思われる海岸の技術者や研究者を対象に2003年から行った。

その中で得られた、聴衆の方々からの意見を列記させていただく。救難関係の職に携わるの方々、離岸流や水難事故予防の研究を行う研究者、海岸を管理する組織の技術者、子供達の安全を確保しなければならない教育関係者、そして保護者の方々等の参考になれば幸いである。

セミナーに参加し、かつアンケートにご協力していただいた方々から、有益なコメントなどを頂いた。以下に、それらの要約を列記し、アンケートに解答していただいた方々への謝意とさせていただきたい。

新潟アンケート

宮崎県泉ヶ丘高校

アルファ水工コンサルタンツ

九州地区海岸工学者の集い

フレッシュマンセミナー

宮之城高校

奄美大島高等学校

銚子セミナー

沖縄那覇セミナー

小樽セミナー

南種子島高校

鳥取セミナー

1. 離岸流・海洋セミナーの感想は

- ・実際に現地を見てみるというセミナーがあると良いと思う。
- ・マリンレジャー安全啓発の為にリーフレット作りに生かそうと思います。
- ・大変有意義だった。いい勉強になった。
- ・離岸流とはどういうものなのか、認識できた。
- ・始めは、遊泳のときの注意としてのセミナーという印象を受けたが、我々がセーリングをするときに発生した事故への対処にも役立つものであると思いました。
- ・初級レベル、楽しく判り易く聴かせてもらいました。
- ・再認識する良い機会となりました。
- ・海難防止指導に取り入れたいと思いました。
- ・地元の海岸の例にとったものが多いほうが良いと思う。
- ・人工的に造った海水浴場も危険な場合があるというのは意外でした。
- ・一般人にはクイズ形式が入っていたので、面白かった。
- ・P4のVTRをもっと長くするといいかも。
- ・あまり海について、なじみがないけど、海ではこういうことがあるのかと新しいことを知られてよかった。
- ・もし海に行ったときに役立つと思う。
- ・宇宙より海洋を知るのが難しいということに驚いた。
- ・海は一度溺れたことがあるので、怖いというイメージがある。
- ・海についてももう少し知りたいと思った。
- ・離岸流というものについて、よく分かって良かったと思う。
- ・すごく自分のためになった。とてもよかったと思う。
- ・結構難しかった。
- ・工学科（海洋土木科）がどういうことをしているのか分かった。
- ・このような機会をもっと増やしてほしい。
- ・豆知識大臣になれそうです。
- ・興味をもつことができ、為になった。
- ・海に関して学んだことがあまりないので、とても役に立ちました。
- ・海に関する仕事を知ることができたと思う。
- ・海は全てが危険ではなく、安全な場所もあって、そこで泳げば大丈夫だとわかった。
- ・いろいろと勉強になり、分かり易い講座でした。また機会があれば聴いてみたい。
- ・初めて離岸流の存在を知った。オリンピック選手の例がわかりやすかった。
- ・もう少し台風の話が聴きたかったが、時間が無くて残念だった。
- ・少し話し方が早かった。
- ・離岸流の存在は知っていましたが、詳細な特徴をわかりやすく説明していただきために

なります。

・離岸流についての話は、TV以外ではほとんど聞いたことがなかったのが現実です。自分が海にあまり行かないからだと思いますが、そういった意味では非常に興味深い話だと思いました。ただ、数値解析の部分が見れなくて残念でした。

・写真などで多くの例を見せていただいたので、中途半端にメカニズムを説明されるよりよかったです。自分で発見するのは困難かもしれないのですが、機会があれば意識して見たいと思います。

・大変有意義でした。特に、一般市民・利用者向けへの説明方法は参考になりました。

・要点が絞り込まれてて、セミナーの時間もよかったです。(長いと集中力が続きません)

・もし次回機会があれば、海浜変形や養浜の話をしていただきたいです。

・大変興味深く話を聴きました。

・非常に実用的で面白かったです。自分は海岸工学を少しもかじっていないのですが、非常に理解し易かったと思います。

・日常無意識に過ごしていた事がセミナーを聴いて各々理由がある事が判明し有意義でした。

・技術者としての責務を感じることができて非常に良かった。

・わかり易い写真や図表を示しながらの説明で、大変面白かったです。次回は是非現場でお話を聞いてみたいです。

・写真についてももう少しじっくり見たかった。

・離岸流と潮汐または水温との関係については、初耳でした。

【研究者】

・写真だけでは実感しにくい面があったので、ビデオや現場でのセミナーができれば良いと思いました。

・大きな事業に海岸工学を役立てるということ以外に、直接住民の方々の生命を守るための教育として非常に有意義だと思います。

・水難事故に対する認識が薄れてきた頃に行うと効果的だと思います。

・特に小学生に対して有意義だと思います。

・時間をかけて説明すれば有意義だと思います。

・誰かがこのようなことをやる必要があると思います。そのような意味で西先生の取り組みは立派だと思います。

・もっと離岸流の特性を知りたいと思いました。

・その他にも、海水浴や海を利用する時に、気を付けることも含んでほしい。

【社会技術者】

・参考になりました。

【大学院生】

・もう少し離岸流のことをアピールしていいのでは。

- ・離岸流を意識する重要性が伝わりました。
- ・当然の知識として身につける必要があることなので、有意義だと思う。
- ・身近な問題だったので、とても有意義だった。
- ・子供向けにイラストを多様にしたほうが良いと思います。
- ・全く知識を持たない方に対しては、有効であると感じました。
- ・静止画より動画のほうが分かりやすいと思います。
- ・海岸工学を学ぶものとしても有意義だと思います。
- ・水難事故の要因の1つである離岸流の発生や、その危険性、回避法を分かりやすく解説いただけた。
- ・もう少し時間をかけて話していただけたら良かったと思う。
- ・字が小さかった。

【学部学生】

- ・離岸流の見極め方を詳しく教えてほしかった。
- ・離岸流について知ることができてよかった。
- ・とてもわかりやすかった。
- ・離岸流のことなど分かりやすく説明されていて、一般市民に対しても有意義である。
- ・理解しても実践するのは難しいと思います。
- ・沿岸流は知っていたが、この離岸流でたくさんの事故が起こるのを見て大きなショックを受けました。
- ・海での事故の大半が離岸流によるもので死に至ること、脱出するときは流れに対して90°方向に泳ぐということを初めて知った。
- ・将来遊びに行く可能性のある海なだけに、気をつけて遊びたいと思う。
- ・小中学校水泳部だったので溺れたことはないが、部の行事で年に1回、救助方法という講習があり勉強していた。
- ・離岸堤はなぜあのような形をしているのかわからなかったが、今日の離岸流の説明を聞いて、ある程度理解することができた。
- ・溺れかけた経験はないが、水中で足がつるとい現象にはよく出くわす。水中で足がつるのは、体温が水にとられて筋繊維が収縮しやすくなるからなのではないでしょうか？調べてみようと思います。

【2年生】 ある 1 ない 4 (人)

- ・3、4歳のときに、波が高く浮輪から落ちて溺れかけた。

【感想】

- ・あまり泳ぐことはないが、泳ぐときは波に気をつけて泳ごうと思う。

【3年生】 ある 1 ない 5 (人)

・3年前谷山の小さい川で。前日が雨だったので思った以上に増水していて流れが強かった。

・弟が溺れて死にかけた事があります。あれは離岸流だったのではないかと思う。

【4年生】 ある 1 ない 0 (人)

・泳いでいる時に、あやまって海水を飲んでしまい、苦しくて溺れかけた。

【1年生・男性】

- ・勉強になりました。
- ・実験があったら楽しくできたと思う。

【1年生・女性】

- ・海のことを知れて楽しかった。
- ・とても分かりやすかった。
- ・とてもいい勉強になりました。
- ・最初はわからなかったけど、後から段々分かってきたのでとても役に立った。

【2年生・男性】

- ・海での安全な泳ぎ方が分かったので良かった。
- ・海で溺れた場合の生き延びる術を知ることができたので、有意義でした。
- ・海のことをよく知ることができ、いい勉強になりました。
- ・海には危険が多くあることを知れた。
- ・海に行くことはほとんどないのですが、行ったときに先生の講義で聞いたことを役立てたいと思います。
- ・大学や進路についてアドバイスしていただき、ありがとうございました。

【3年生・男性】

- ・海のことを全然知らなかったので、ためになった。
- ・自分のためになるようなことを教わることができてよかった。
- ・万が一のとき、どうすればよいか分かってよかった。
- ・海には特殊な流れがあることがわかってよかった。
- ・危険から身を守ることを教わったので、これから先に役に立てたい。

【3年生・女性】

- ・今年は海に2回も行って楽しかったけど、生きて帰れてよかったと思いました。
- ・思っていたより知らないことも多かったし、知っていればいろいろな危険から防げることを知れたのでよかったと思う。

1年6組9番 榮 逸朗

西隆一郎先生の講座は、僕たち海に恵まれた奄美人には、大変ためになったと思いました。毎年、多くの海難事故で死傷者が出ていると聞いて、とても驚きました。離岸流についても教えてくれました。真上から見ると離岸流は分かりやすかったけど、波のざわつきや波の形などで離岸流の見つけ方を教えてくれたので、良かったと思います。他にも、118番が海上保安庁だと初めて知りたためになったと思いました。海に行つて気を付けることは、離岸流に流されても落ち着いて岸方向に泳がないで、パニックにならないで落ち着いて横方向に泳ぐことを気をつけるようにするととてもいいと言っていて、そうだなと思いました。このようなことを守つて、安全に海で泳いで楽しめるものになりたいと思いました。

1年7組31番 永 美幸

西隆一郎先生の話聞いて、海とは危険をよく考えないといけないのだなと思いました。私も海で1度溺れそうになったことがあります。そして、その理由は海で遊んでいる時に海の底がある地点でいきなり深くなり、足場が急になつたため慌ててしまったからです。しかし、隆一郎先生の話をして、海のふかくなつているところを普通の人でもよく注意すれば見分けられるのだということが分かりました。そして、海に流されたり溺れたりしたら、慌てず落ち着いて状況を対処することが大切なのだということも分かりました。また、海には海流の流れが違ふ場所があり、一方では岸から離れていく海流があり、もう一方では岸に向かっている海流があるということを初めて知りました。そしてそれもまた、注意をして波打ち際を見ればその違いを見つけられるということも分かりました。なので、今度海に行つて海で泳ぐ時は、隆一郎先生に教えてもらったことをよく心にとめておいて、ちゃんと岸に向かつて流れているような場所で泳ぐように気をつけて、もし海に流されてしまつても落ち着いていられるようにしていこうと思いました。

2年2組19番 山口 雄馬

今回の講座は、安全な海域利用ということで、特に海のレジャー時に安全を確保するために海の性質・特徴をよく知ることが分かりました。僕が今回なるほど思つたことは、海岸で泳ぐときに離岸流をよく知ることが分かりました。離岸流の流れは海岸の地形によって流れが起こる場所が変化して、しかもその離岸流というものは恐ろしいということでした。一度離岸流に乗ってしまうと、一般のスポーツをしている人でもほとんど岸に帰つて来ることは不可能ということです。これを聞いて、自分は海が恐ろしいものだなと思つたが、西先生は離岸流に乗つても死ぬことはない。絶対に帰つて来られます。と言つた。離岸流の横には必ず岸に向かっている潮の流れがあつて、それに乗れば自然に帰つて来られると言いました。僕はそれを聞いて安心しました。僕は、この講座を受けて海の安全利用の仕方を知れてよかったです。

1年8組26番 重信 涼

今日はとてもいい講座が聴けました。『離岸流』という言葉は初めて聞きました。離岸流はとても危険だそうです。でも、もしそこに流されたときの対処法や、いろいろな事が知れました。私は西先生に、海上保安部というのを教えてもらって、海で流されたら、海上保安部に電話するのかなあと思っていたが、まずは119番(消防署)に電話だそうです。こういうことも聴けて、とてもためになりました。なので、まずはパニックにならず、絶対焦らないで行動をとりたいと思いました。とてもためになる講座を聴かせていただき、ありがとうございました。

1年2組26番 押川 彩奈

今日は鹿児島大学工学部海洋土木学科の西隆一郎先生によって、「安全な海域利用」について講義された。その中で初めて知ることなどたくさん学ぶことがあった。毎年世界中で海を利用する人は約3000万人で、サーフィンをする人は600万人という人々が海を使っているんだなあと思った。海に行くと水難事故が起きるが、その前に起きない事を教えてもらった。次の事が一番大事だと思った。まず、海での訓練はどれだけ泳げるかではなく、どれだけ長く浮いていられるかということだ。他にも波の状況判断では、波が砕けているところは水深が浅く、砕けていないところは深いということがわかった。このようなことを身に覚えておき、海に泳ぎに行く日は安全な海域利用をしようと思った。

1年2組3番 岩崎 将士

安全な海域利用というのは、僕たちにとってとても身近な問題だと思います。毎年、海での事故は絶えることはありません。僕がよく行く海でも、事故がおきたことがあります。特に、僕の場合は、サーフィンやウインドサーフィンをするので、海の条件が整うには少し危険がつきものです。サーファーの事故も多いです。今日の講義で『離岸流』ということも危険な流れについて知ることができました。サーフィンのときは、この流れに乗って沖まで行って波を待ちます。でも、この流れが僕の予想以上に危険であることに気づかされました。これから先の夏は、よく気をつけてやりたいと思います。そして、他の人にもこのことについて話をしてあげたいと思います。

2年2組1番 愛甲 竜也

海の危険についてたくさん事を学べたので、今度から海に行く時は、今まで以上に楽しめると思いました。今日の講義で、主に離岸流のことについて話していただきましたが、離岸流は循環流のうちの一つで、離岸流が岸から沖へ向かって流れる海流なのに対し、沿岸流が岸に向かって流れる海流なので、つまりはうずのようになっているみたいなのだと思います。そして、その見分け方(見つけ方)は、波があまり立っていない所に深い川のように流れている所があり、そこが離岸流、波が砕けている所は珊瑚や岩などがあり、

浅く、沿岸流になっているということでした。また、もし離岸流に流されてしまったらということで、「落ち着く」、「誰かに合図を送る」、「離岸流頭まで流れに身を任す」こと。流されている人がいたら119番、110番、118番（海上保安庁）の順で電話をかけ、間違っても自分で助けようとしないうことを学びました。もし、機会があれば試してみたいです。

1年7組9番 友野 大地

僕は今回、この「安全な海域利用について」という講座を受講できて、大変良かったと思いました。なぜかという、奄美大島のように島の周りが全て海である離島などは年にいろいろな場面で海を利用することが多いからです。また、今回の講座の中で耳にした『離岸流』という言葉や、海とプールの泳ぎ方の違い、緊急時の連絡する順番など、海での活動を多くする僕たちにとっては、大変役立つことばかりでした。その中でも、「海で大切なことは泳げるのではなく、浮くことができること」であるという言葉が印象的でした。人並み以上にプールでは泳ぐことができる人も、岸から離れていくにつれ、人並みと変わらなくなるそうです。このように、どこにおいても「自分の身は自分で守る」の言葉が重要なことが、今まで以上に分かりました。いつかまた、今回のような出前講義が行なわれる際には、進んで参加してみたいと思いました。

1年2組35番 則岡 佳那美

今日西先生の講義を聴いて、あらためて海がどれほど危険なところかわかりました。私は、今まで離岸流という言葉を知らなくて、どこも安全なものだと思っていました。しかし、そうではなく離岸流という沖に向かって流れる場所があります。もし、離岸流に流されたら落ち着いて流れに身を任せたほうが良いということを知りました。また、水難事故を事前に防ぐには、そこが危険なところではないかと、その場所のことを良く知ることが大事である。私は、これらの話をたくさん聞いて、これからはまず、安全かどうか知り、自分で離岸流を見分けられるようにしたいと思いました。

1年2組27番 海田 英里香

今日の西先生の話聞いてみて、海のことをよく分かったような気がします。先生の話はとても分かりやすく面白かったです。私は、家が海に近いのでよく泳ぎに行くので色々なことが学べてよかったです。注意することは、海に入ったら沖に向かって泳ぐんじゃなくて横に泳ぐことと、溺れたら手を振る、溺れた時は波に逆らって泳ぐんじゃなくて流れに沿って泳ぐ。などなどです。海とプールの泳ぎ方は違うと聞いてビックリしました。世界で年間30万件ぐらい水難事故が起きているのを知ってビックリしました。人が溺れたらまず119に電話をして、次に110に電話をすることを学んだ。

1年2組9番 田畑 竜太

西先生の話聞いて思ったことは、やっぱり海で泳いでいたりして一番大事なことは、自分の体は自分で守るということだ。離岸流だって、自分で見つけられるようにして、その近くで泳がないようにするということだ。それに、もし離岸流にあったらどうするかという対処法も聞いた。自分の身長よりも波が小さければそのまま浮いていればいい。(海で大事なものは、泳げるかよりもどれだけ浮いていられるかということらしい。)浮いていれば、自然に陸の方へ流されるから大丈夫ということだ。そして、波が自分の身長よりも大きい時は、横に泳げばいい。そして、離岸流に似た海難事故で共通していえる事は、パニックにならないということだ。パニックになれば、自分の体力も消耗してしまうし、冷静な状況判断ができなくなってしまうから、今日の話は海の怖さをより理解することができたし、気をつけることが増えた。今日の講義をこれからの生活に役に立てていきたいと思う。

1年8組40番 渡 まなみ

私たちは、毎年暑くなると海に泳ぎに行きますが、常に『安全』だと思い込んでいたように思います。けれど、先生が常に安全なわけじゃないとおっしゃいました。たしかに海で死亡する人は多く、やはり危険だなあと思いました。毎年1億2千万人くらいの人が生みに来ていると聞きました。しっかりと安全な海域利用を知ったうえで行かなければならないなあと感じました。

写真で、台風の波とか、うみがめの移動距離などを見せてくださいました。白くにごっているところは、沖に流れるというサインだそうです。私たちが、そこを泳ぐと沖に流れてしまうということを知りました。また、離岸流に遭遇した場合の対処やその見つけ方なども詳しくやさしく教えてくださいました。

1年5組40番 渡 麻紗美

わたしたちは、主に夏など海水浴をしたり、海に行って遊んだり、たくさん「海」と関わっています。西先生のお話を聴いて、たくさん今までわからなかった事がわかりました。波はどうしてできるのか?という質問に対して、99.999...%は風でできているそうです。波の定義は峰から峰、谷から谷までの波を1つと数えるそうです。今まで知らなかったことなので、とても驚きました。また、海の事故で最も多いのは洪水で、事故が起きると3割~4割の人間が亡くなってしまいます。海は、楽しい場所として多くの人々がやってきますが、その反面で事故が起きるという怖さももっています。それをしっかり認識して、海に行くときは注意していきたいです。

1年4組16番 東 広大

この講座は、もっとも受けたかった講座だったので講義を受けることができてとてもうれしかったです。この講義を聴いて一番ビックリしたことは、法律で海と陸に境界線が定

められていると聞いたときは、正直言ってビックリしました。そして一番興味深かったのは、漁港をつくと砂浜が消えてしまうことです。漁港のせいで海流が変わり砂浜を浸食して、砂浜が消えてしまうなんて全然知りませんでした。そのため、かつてに漁港や、海の上に建物をつくったり建てたりしてはいけないと初めて知りました。西隆一郎先生の御講義は、とても丁寧でわかりやすかったです。西隆一郎先生、ありがとうございました。

2年4組5番 川元 健太郎

今日の講座を聞いて海の浸食災害について、詳しく知ることができました。まず、波とはどのようにして起こるものなのか、というところから始まりました。波は、引力や風力によって起こるそうです。波の大きさが浸食のデータが違うということがわかりました。波が大きければ、浸食が大きいそうです。このような浸食などが起こると、様々な問題が発生してきます。そのような問題を防ぐために、日本の場合には、海岸にブロックを張るそうです。他の国では、浸食された海岸を元に戻すために、もう一度砂をばらまくそうです。現在では、パソコンにより浸食のされ方や、どこまで浸食されるかなどが計算できます。こうした災害などを防ぐために、勉強している人たちがたくさんいるということがわかりました。このような人たちの努力により、安全な暮らしができるということを知ることができました。

2年4組14番 徳 章浩

波浪による海岸侵食災害という鹿児島大学工学部海洋土木科の講座を聴いて、まず僕の行きたい進路は、この鹿児島大学工学部海洋土木科なのでとてもためになりました。海岸の浸食や、どうしたら起こるかなどを講義されました。海岸は波によって砂がえぐられ、もっていかれて砂浜がなくなったりするそうです。その砂浜をえぐる波は、99%風で作られていて、台風の後被害が多いのは、やはりそのせいだと言っていました。日本の場合は、被害が出るとブロックを入れるが、外国は砂浜がなくなるともう一度そこに砂を入れて砂浜を作ればよい、という考えだそうです。今回の講座を聴いて、やはり将来の僕のやりたい仕事に合う学科なので必ずがんばって行こうと思いました。

2年4組12番 東條 充

西隆一郎先生の講義を受けての感想は、オニヒトデというヒトデが、サンゴの破壊をしていたとは、たぶん初めて知りました。いま、日本では地震が起きていて、地震の被害はそうとうなものになっているけど、地震などの被害よりも、洪水の死亡率の方がはるかに高いということにも驚きました。海の波は、風や地震などによって起こるということは知っていたけれど、具体的に風によって起きているということは知らなくて、さらに、海の波は約5～10秒間に1回起きていて、1日に起こっている波は約1万回ということが知ることができて、なぜかとても楽しくなりました。

1年5組25番 岩崎 瑠奈

波浪について西隆一郎先生からの話を聞き、今まで知らなかったことが、たくさん分かりました。この奄美の波は、他の海より波のくる周期が遅いらしく、6秒～10秒の周期でくるらしいです。また、波はほとんどが風によっておこることが多いそうです。1日にくる波は約1万回だと聞いて、とても驚きました。また、奄美には多くの台風が来ますが、日本では台風と言うけれど、ハワイではハリケーン、インドではサイクロンと言うそうです。今日はいろんなことが知れてよかったです。

2年5組2番 有川 真奈斗

僕がこの講座を選んだ理由は、今年は特に台風の多い年で、海の横にある道路が波で削られているのを見たので、この講座にしました。この講座の中で、奄美の海岸などが多く出てきたので、とても身近でわかりやすかったです。それに、港を造ったり埋立てをしたりして、日本中の海岸で砂浜が減ったり移動したりなくなったりなどの異変が起きていることを聞いて驚いて残念に思いました。でも、今ではコンピューターで海岸浸食のシミュレーションができるようになったので、開発が海岸に与える影響について予測ができるようになったというので、ホッとしました。これからは、自然を大切にしたい開発が必要だと思いました。

2年2組25番 清水 有希子

私がこの講座を選択した理由は、他にもない海が好きだからです。1時間目の講座とは違って海の外部を知ることができました。どうして波が起こるのか？とか、風はどうして吹いているのか？とかそういう日常の疑問を詳しく教えてくださいました。奄美は台風に襲来が多く、地形がとても変わりやすいです。防風林が多く、車がとてもさびやすい。その理由なども知ることができました。楽しい海で安全に遊べるように、波のことについてよく知る。ときには、楽しい表情、やさしい表情を見せてくれる海。しかし、一つ間違えると命を落としてしまう危険性があります。海のことをもっと知ることが大事で探究心を持つべきだと思います。大好きな海をもっともっと知りたいです。今日はこの講座を選んでよかったです。

- ・ 動画がよかった
- ・ 具体例がよかった
- ・ もう少しセミナーの時間を延ばしてほしい
- ・ 少人数質疑応答形式にしていきたい
- ・ 難問の答えを教えてくださいました
- ・ 現場に対応するきっかけをいただけた

- ・ 沖縄では海難事故が多いので、事故防止のため良い勉強になりました
- ・ 地上と月の高さからの資料等を使っていただき大変参考になりました
- ・ 離岸流発生ポイントと水温についての関係が気になった
- ・ 広報、啓発コースの所は話が分かり易くてよかった。内容、資料等から、非常に濃密な課題だと実感したが、少し駆け足過ぎた感じがしましたので、もう少し時間を取ってゆっくり行った方が良いと感じました。
- ・ 自分でも木の葉などを用いて離岸流を見てみたい
- ・ 地域特有の流れがあるとよく聞いていたが、それが離岸流であるとわかった
- ・ 前半の観測方法の部分は難しく、後半の映像や写真を見ながらの解説は分かり易い
- ・ パワーポインターでの説明とテキストのページを対比して行えば、もっと理解が深まるのではないか
- ・ パワーポインターが見つらく、声が聞き取りにくかったので、マイクを使い、違う会場で行って欲しかった
- ・ 今後、海で泳ぐときには岸に沿って泳ぐようにしたい
- ・ もう少し講演の時間が長ければよかった
- ・ 離岸流という言葉は聞いたことがあったが、どういうものかわからなかったが、今日どういうものかわかった
- ・ 上空からの写真により離岸流の発生箇所がわかり今後の参考になりました
- ・ 離岸流はいつ、どこで発生するか分らないと思っていましたが、地形等を見ることにより、予測できることがわかりました
- ・ 島に住んでいる私にとって、海は身近なものなので、とても興味が持てた
- ・ 大学の姿勢が変化していることがわかった
- ・ 離岸流の危険周知をもう少し図ったらどうかと思った
- ・ 知識を身につけることで、命の安全性を知ることができるなんて、すごくいいことだと思いました
- ・ 離岸流の発生原因がわかった
- ・ 海難事故防止のため、一般サーファーも対象にした方が効果が高いのでは
- ・ H13年にも離岸流の講演を受けたが、本日はより専門的な講演でよかった
- ・ 海水浴場での事故防止は一般市民に広報すべきでは
- ・ ネットアクセスについてはとても参考になりました
- ・ 参加者が少なかったのが残念です
- ・ 小、中、高校生向けに、教師への講演会が必要

2. 離岸流の探査で何かアドバイスはありますか。または質問はありますか

- ・ 航空機レーザーの利用（活用）を期待します。
- ・ 汀線付近の詳細な海底地形の把握
- ・ 水深と流速との関係のデータがあれば知りたいと思います。
- ・ 沿岸で起こる漁船、ボートの転覆事故に離岸流の関係があるのでは？
- ・ 天気による変化はありますか？
- ・ 離岸流が発生するところでは、海岸災害がありうるのか。
- ・ 離岸流の制御について、何で起きるかという、補償流としてとらえればいつどこにおいて起きてもおかしくはないと思う。
- ・ 離岸流は常に同じ所で発生するのか。
- ・ 赤外線カメラによる海岸管理が防災、海浜利用の面で今後必要。
- ・ 沿岸域の海岸情報整備の一環として考えていく必要がある。

【研究者】

- ・ SONYのHGPSでは、離岸流スケールでは精度が悪いような気がします。RTKかDGPSの利用が望ましいと思います。
- ・ 先生の話聞いて、危険性を重点的に伝えることが一般市民の気を引くことになるのかなと思いました。今後、学生にはそのように話をしようと思いました。
- ・ NPO、ボランティアの方々と一緒に調査することが、離岸流の知識を持った人を増やしていく上でも有効ではないでしょうか。
- ・ 画像情報の利用。
- ・ 小型水槽による再現。

【社会技術者】

- ・ サーフィン、ヨット遊びの人々には当然必要な知識である。
- ・ 一般の人には、もっとわかりやすくしたほうがよい。

【大学院生】

- ・ 流速の鉛直構造を知りたい。(ADCP観測など)
- ・ 離岸流に関する、もっと詳しい研究が必要だと思う。

【学部学生】

- ・ あまり離岸流の知識がないので、ビデオなどで染料を使った実験の様子を見せたり、離岸流の危険さを伝えるようにすればよいと思う。
- ・ 子供たちには、親からの教育が最も必要だと思います。
- ・ 地元ではミヨ（離岸流）が発生しやすい場所には神社が祭っていると聞いています
- ・ 浜辺のマップを作る
- ・ 国土地理院との共同プロジェクトをしてみても

3. 海のことですべて聞いてみたいテーマはありますか？

- ・安全な海について
- ・クリオネについて
- ・高潮について
- ・どうして波が起こるのか知りたい。
- ・海洋生物について
- ・波のしくみについて
- ・これからの資源かエネルギー問題について
- ・海と人との接し方
- ・養浜方法と離岸流との関係
- ・侵食防止
- ・離岸流と大津波との関係
- ・ヘットランド間の砂の流れ
- ・海浜流で発生する流れ
- ・リップカレントと水深の関係
- ・海難事故
- ・逆潜流の仕組み
- ・子供と海で遊ぶときの注意
- ・海難事故者（離岸流を利用した）の救出方法
- ・風と波の発生メカニズム
- ・月齢の変化と水難事故の変移について
- ・海水温度による生存可能時間
- ・津波の発生原理
- ・漂砂、離岸流の対策
- ・台風時の波について
- ・離岸流の大潮・小潮時における特徴
- ・沖縄県の人工ビーチにおける離岸流等の特徴
- ・身近な海の危険生物
- ・季節ごとの潮の流れの変化
- ・シュノーケリングでなぜ事故が多発するのか
- ・津波への対応
- ・高潮、津波に対する沿岸防災
- ・波浪について
- ・沖縄の赤土流出の問題

- ・ 潮の流れと魚の活動
- ・ サーフビート
- ・ 人工海浜工事に当たる注意点
- ・ 突堤周辺での流れの解析
- ・ 海浜レジャーと構造物との安全性
- ・ 潮流
- ・ 海浜流
- ・ 石狩湾の低気圧
- ・ 高い波はどんな周期で来るのか
- ・ 種子島の海が年々汚れてきていると感じます。私は、海岸線の道路工事や港、堤防の建設が原因に思います。岩場に砂が溜まったり、海水が汚れています。どうにかならないでしょうか
- ・ 鹿児島湾の赤潮を防ぐにはどうしたらいいか
- ・ 海面上昇による影響が現れてきているのか、また、予想される問題についての対処を考えているのか
- ・ 海水温上昇による影響を防ぐための土木工学的措置があるのか
- ・ サメ対策、ハンマーヘッドシャークは恐くない
- ・ 波と海岸地形の関係
- ・ 海図
- ・ 海岸地形から海図の基礎的読み方、水路についてなど
- ・ 命を守る事、海を守る事について